

付属と附属について PDF转换可能丢失图片或格式，建议阅读原文

[https://www.100test.com/kao\\_ti2020/147/2021\\_2022\\_\\_E4\\_BB\\_98\\_E5\\_B1\\_9E\\_E3\\_81\\_A8\\_E9\\_c105\\_147547.htm](https://www.100test.com/kao_ti2020/147/2021_2022__E4_BB_98_E5_B1_9E_E3_81_A8_E9_c105_147547.htm) 私が某出版社の辞典集であったころ、者の方から、「主になるものについていること。また、そのもの」の意を表す「ふぞく」は、「付属」とも「附属」ともくが、どちらの字表が切かというをで受けたことがある。一般には「付属」でよく、新などでも多く「付属」を用いている。（「大学に付属する研究所」「付属病院」。ただし、「大学附属高等学校」が正式名称であるような合は、その表にならって「附属高校」とかれることが多い。）「附属」は、法令??公用文などで使われる公式の表である。「付」と「附」の本来の意味は、「付」は「授ける。与える」（付与??交付）、「附」は「つける。つく」（附属??附着）である。しかし、者は古くから通じて用いられ、いずれの合にも「付」でかれることも多かった。そこで「当用字表」（1850字）（昭和21年、内告示）に入れる字をめる、字形がでない「付」だけを入れ、「附」は入れなくてもよいのではないかという考えも出された。ところが、世の情をみると、「附」の使用例も多く、法にも「附」が用いられている。そこで者を入れることにした。その後、「当用字表正料」（昭和29年、国会告）が出されたが、それには「附」は削る字とされている。（当、ゆくゆくは削ってもよいのではないかという判断がくだされた字。あくまでも正料の告にとどまり、正式にめられたものではない。）それにのっとして、道などでは

「付属」を用いるようになり、「常用字表」公布後の今でも引きき「付属」を用いている。「者ハンドブック 新用字用集」（第8版）（共同通信社、平成9年刊）にも、「ふぞく（附属） 付属」とある。法令、公用文、新、放送など、一般の社会生活において、代の国をき表す合の字使用の目安を示すものとして、「常用字表」（1945字）は昭和56年（内告示）に公に示されたが、そこには、「付フ（付与、交付、付）、つける（付ける、名付け）??つく（付く、付く）」「附フ（附属、寄附）」とあり、「当用字表」と同じく者をげている。また、「文部省用字用例」（昭和56年）には、「ふ 附 附、附属、附、附置、寄附」「ふ 付 付 付 付 付 付 付 付 付」と、「付」と「附」の熟例がかなり多くがっている。「附属」は、「常用字表」及び「文部省用字用例」にのっとなった表とも言える。しかし、在、小学校の各学年に配当されている「学年字配当表（1006字）」（平成4年4月から施行）には「付」（4年に配当）しか示されておらず、小学校段では、「ふぞく」は「付属」（「属」は5年に配当）とくように指される。中学になり、1006字以外の常用字も学ぶようになってはじめて、「附属」という表もめられていることを知るわけである。100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问

[www.100test.com](http://www.100test.com)